

# 東濃西部3市ごみ焼却施設の 広域化について

資料1

令和6（2024）年8月20日

東濃西部広域ごみ焼却施設整備等に係る基本構想策定委員会

# 本日本お伝えしたいこと

- 1 なぜ東濃西部3市で広域化を目指すのか
- 2 現状の把握

# 広域化を目指す理由

- 1 少子化によって、将来、市単位でゴミ焼却施設を維持することが困難になる
- 2 広域化によるコスト圧縮によってゴミ処理という公的サービスを維持していく
- 3 各市単独では最新機能を有する施設更新が困難でも、広域化によって脱炭素社会を実現させる

岐阜県ゴミ処理広域化・集約化計画（令和4年3月）において、令和32年度のごみ焼却等施設の望ましい姿として東濃ブロックには焼却施設は2か所と設定されています。現在、中津川市・恵那市で広域化の検討が進められており、計画を踏まえると、必然的に東濃西部地域で1か所の整備となります

# 3市をめぐる状況（多治見市三の倉センター）



処理方式	シャフト炉
可燃ごみ処理施設能力	170t/24h
使用開始年度	2003年
稼働年数	21年
全国平均供用年数 (30年間)との比較	残り9年

170t/24hを  
覚えておいて  
ください

# 3市をめぐる状況（瑞浪市クリーンセンター）



処理方式	シャフト炉
可燃ごみ処理施設能力	50t/24h
使用開始年度	2002年
稼働年数	22年
全国平均供用年数 (30年間)との比較	残り8年

# 3市をめぐる状況（土岐市環境センター）



処理方式	ストーカ炉
可燃ごみ処理施設能力	70t/8h
使用開始年度	1990年
稼働年数	34年
全国平均供用年数 (30年間)との比較	4年超過

8hということは、  
昼間しか稼働して  
いない

# 3市をめぐる状況

## 止まらない人口減少

項目			R4	R10	R15	R20	R25	R30	備考
			2022	2028	2033	2038	2043	2048	
人口予測	多治見市人口	人	107,443	100,821	95,952	90,635	85,110	79,546	循環型社会 形成交付金 交付要件 50,000人以上
	瑞浪市人口	人	36,355	33,660	31,641	29,600	27,527	25,439	
	土岐市人口	人	56,047	49,882	46,651	43,431	40,279	37,173	
	合計	人	199,845	184,362	174,245	163,667	152,916	142,158	

出典 : R10以降は人口問題研究所推計をベースに加工

# 3市で協定書を締結しました

## 1 経緯

- (1) 3市のごみ焼却施設は老朽化が進んでおり、建て替えが喫緊の課題
- (2) 少子化が深刻であり、3市其々で焼却施設を保有・運営していくことは困難

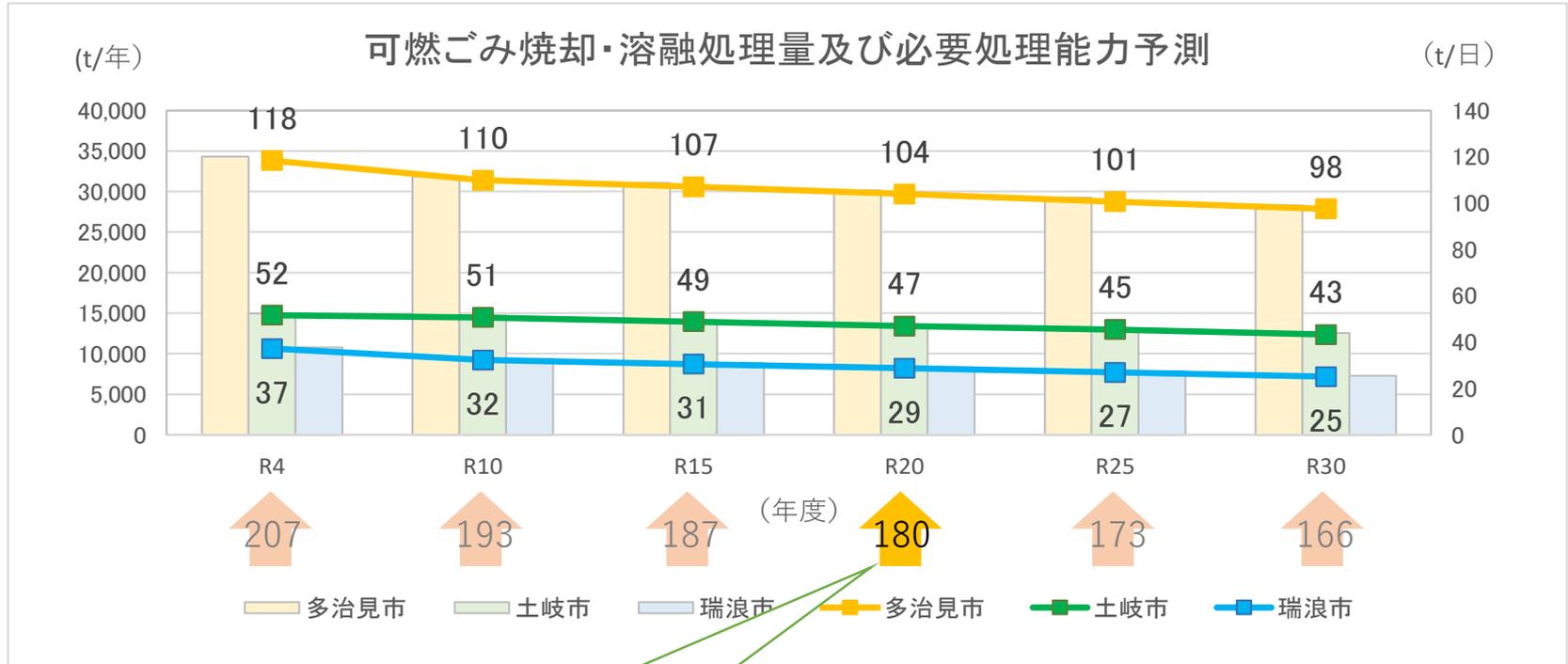
## 2 目的

- (1) 広域化によるコスト削減
- (2) 脱炭素社会の実現

## 3 決めたこと

- (1) 3市によるごみ焼却施設等の整備及び管理運営の広域化の検討
- (2) 施設の目標稼働年度を令和19年度とする協力連携
- (3) 資源化施設及び粗大ごみ処理施設の整備及び管理運営についての協議

# ごみ焼却施設想定規模



現在の三の倉センターと  
同じくらいの  
規模 (170t/24h)

# シャフト炉とストーカ炉、どっちがいいの？

焼却方式	溶融施設(シャフト炉)	焼却施設(ストーカ炉)
現在導入している市	多治見市・瑞浪市	土岐市
概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高温燃焼を維持するために電力や燃料を多く消費し耐火材等の補修費用が大きい。⇒ランニングコストが高い</li> <li>・焼却灰をスラグ化することにより、焼却灰が少なくなる。⇒ストーカ炉の1/3程度○</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温度域が低いことから燃料消費や補修費用が比較的安く、かつ安定的な運転が行える。⇒ランニングコストが低い○</li> <li>・溶融施設と比較して焼却灰が多くなる。⇒管理型最終処分場の処理量が多くなる。</li> </ul>
施設整備費	仮25,000,000千円(250億円)	仮24,000,000千円(240億円)
処理費等	25千円/ごみt ~ 37千円/ごみt	11千円/ごみt ~ 21千円/ごみt ⇒安い○
地球温暖化	溶融物(スラグ)を安定的に排出するための助燃が必要で、多量の燃料を使用するため二酸化炭素発生量が多い。	高温の炉内でごみが自燃するため、燃料を必要としないことから、溶融施設と比較し二酸化炭素発生量は少ない。⇒CO2発生量が少ない○
近年の実績	・設備の修繕費が高額となることや燃料使用量が多い等維持管理費が高額となるなどの理由により、近年の実績は少ない。	・長い歴史を経て技術的にも習熟しており、溶融施設と比較して維持管理費が安価となるため、信頼が高く稼働実績が多い。

# 長期的なスケジュール

可燃ごみ処理施設建設事業スケジュール(案)

業務の内容	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	R17	R18	R19
	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	2033	2034	2035	2036	2037
	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14
広域化実現可能性調査	↔														
広域化基本構想		↔													
用地選定		↔	→												
用地取得				↔	↔										
一般廃棄物処理基本計画				↔	↔										
循環型社会形成推進地域計画					↔										
施設整備基本構想					↔										
施設整備基本計画						↔	↔								
測量・地質調査						↔	↔								
都市計画決定						↔	↔	↔							
環境影響評価						↔	↔	↔			↔	↔	↔	↔	↔
発注手続き								↔	↔						
建設工事										↔	↔	↔	↔	↔	↔
施設稼働															→

現段階の稼働目標である令和19（2037）年までまだ13年もあり、**途中で延命工事が必要**

# 整備場所選定のプロセス

東濃西部地域を一体的に俯瞰し、  
様々な規制や条件を勘案のうえ、  
有識者や地域住民等により構成される  
**当委員会**において徐々に絞り込んでいく  
ことを想定

# 令和6年度のスケジュール

1、5月2日に3市で協定書を締結（済）

2、3市の担当者レベルでワーキンググループを3回開催。

基本構想策定に向けて、3市のごみ焼却施設や埋立場を見学。ごみ収集・資源の分別等の現状を現場で確認して其々の状況を基礎から共有（済）

3、必要に応じて、3市の部課長レベルで担当者会議を開催（継続中）

4、策定委員会を開催（本日からスタート）